令和5年度　学校自己評価表

（ 最終 ）　　学校名　三原市立中之町小学校　　校番（ 4 ）

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成 「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）夢を語り、主体的・協働的に課題を解決する児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）地域から信頼され、自校に誇りがもてる学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9 月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びとなる授業づくりを通し、自ら考え学びあい、課題を解決する力を育成する	〇算数科を中心とした深い学びに向かう授業改善 ・数学的な見方・考え方を育む授業の在り方 ・効果的なICT活用と対話の探究 ・振り返りによる学びの自覚 ・繰り返し学習の徹底 （標準学力調査等、チャレンジタイム、個別指導） ・授業研究と授業観察による改善視点の共有化と進捗把握	①単元末テストの「知識・技能」において、80%以上の児童の割合 ②単元末テストの「思考・判断・表現」において、80%以上の児童の割合 ③「授業で自ら考え学び合い、課題を解決している」と回答している児童の割合 「授業をファシリテートすることを意識することができた」と回答している教師の割合	①85% ②80% ③どちらも90%	①84.9% ②64.0% ③児童 90% 教師 94.2%	①85% ②54.2% ③児童 82% 教師 80%	①100% ②67.7% ③児童 91% 教師88%	B	①目標を達成できた。 学力が定着していない児童の把握と手立てを共有し、学年で実施した。 ②目標を達成することができなかった。 学年・学級による実態の差が大きい。 単元末テストの「思考・判断・表現」において、事前に単元でどんな力を付けることが必要かを学年ブロックで意見交流した。 ③目標を達成することができなかった。 児童の肯定的回答については、学年・学級による実態の差が大きい。 「授業をファシリテートする」ということについて、理想とするイメージの共有をすることができた。しかし、理想のイメージの共通認識ができたことで実際の授業との差が分かるようになり、できたと回答できなくなったのではないかと考える。	①子供たち主体の学び合いを意識した授業改善。目標値を達成することはできたが、個への支援を充実するために、ミライシードのAIドリル等を効果的に活用することで基礎計算力を高めていく。 ②学年・学級による実態の差が大きい。学習のルールを徹底し安心して学び合える場づくりをする。また、場づくりができている学級については、授業の中で意図して、「思考力・判断力・表現力」を問う場面を設定し、自分の言葉で伝えあうようにする。 ③共有した理想のイメージについて、実現するための手立てを教員間で話し合い、実行に移していく。児童が主体的に学ぶことができている際には教師が肯定的に価値付けを行い、児童の意識向上にも努めるなど、課題解決型の授業に取り組む楽しさを児童に伝える。	〇			「ファシリテーション能力」は、教師に求められる資質・能力のひとつに挙げられています。このイメージを教職員間で共有できたことは、取組の大きな成果だと思います。今後は、この具体化に向けた取組に期待しています。 後期の評価で達成値が下がっているのが気になります。学年・学級による実態の違いはあると思いますが、学習のルールなど学校全体として徹底した指導を継続的にお願いします。 学年・学級でのアンバランスなどについては、学年ブロックに止まらず教員全体及び教科横断での意見交流・経験交流を増やすなどしながら、共有・標準化することが求められているのではないかと思います。
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標達成のため、自ら挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく力を育成する	①学級・学年・児童会としての意識を高める集団づくり ・学校行事・児童会行事を活用した目標・手立ての設定と振り返り ・がんばりを認める場の設定 ・縦割り班活動の活用 ②「あいさつ」と「掃除」による気持ちの良いきれいな学校づくり	①学校行事・児童会行事において、目標達成のために手立てを設定し、頑張りを認める場の設定（月１回以上） ②「あいさつ」「掃除」の振り返りで肯定的評価をした児童・教師の割合	①90% ②90%	①100% ②あいさつ児童 95.7% 教師 23.5% 掃除 児童 93.7% 教師 41.2%	①100% ②あいさつ 児童 89.4% 教師 18.8% 掃除 児童 93.3% 教師 25%	①111% ②あいさつ児童 99.4% 教師 20.8% 掃除 児童103% 教師 27.7%	A C C	①目標を達成できた。 校内ウォークラリーや縄跳び大会などの児童会行事と、縦割り班掃除や全校の月目標の日々の活動を常に評価し、フィードバックすることで、頑張りを認める場をつくることができた。また、ハートフルコンサートのスローガンも各学級の意見をもとに決定し、全校の目標とした。 ②目標を達成できなかった。 10月に全校目標をあいさつにし、強化月間を実施し児童の挨拶を評価したたところ、挨拶の様子が変わったが、その後が継続されなかった。縦割りで掃除をしていることもあり、各学級での掃除指導ができていない。また、３班を教員１人でみるため、どの班にも同じように声をかけることが難しい。	①今年度行った児童会行事や学校行事を、児童の意見や教員の反省をもとに、次年度以降さらに児童の成長や学級経営につながるようにブラッシュアップしていく。全校目標については、学校の実態にあった目標や企画になるように児童会本部役員とともに決めていく。 ②児童会本部役員の児童と挨拶レベル表を作成し、全校に広めたが、取り組み期間内でしか成果が得られず、継続できなかったので、年間通して継続できる取り組みに変えていく。また、掃除についても挨拶同様児童と教員の目指す姿の共有をしていく。年度初めには掃除の仕方について健康安全部と協力しながら、高学年児童と共に下学年に指導できるようにしていく。児童の様子を変容させるために、今はまず、教員がしっかりと挨拶や掃除をすることから取り組んでいる。	〇			「あいさつ」「掃除」の振り返りにおいて、児童と教師の差に開きがあることが気になります。教師と児童でめざす姿の共有や具体的取組の共通化を図り、自己評価の信頼性の向上をお願いします。 「あいさつ」「掃除」は学校生活の基本と思います。子供が「あいさつは大切なんだ。相手への礼儀、思いやり、そして自分の心のゆとり」と理解できれば、あいさつをするようになるのではないかと思うので、あいさつは「大切」と引き続き指導をお願いします。 縦割り班活動を通して行われている集団づくりの取組を「あいさつ」「掃除」に活かされることを期待します。
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎的実践力の育成	〇自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする態度を育成する	①基礎体力の向上（運動量の確保） ・体力テストの実施による課題の分析と指導の工夫 ・体育の授業の工夫 ・外遊びの推奨と縦割り班遊びの実施 ②計画的・意図的な食育指導・給食指導の実施	①運動やスポーツが好きな児童の割合 ②感謝して食べようとする児童の割合	①80% ②80%	①90.9% ②96.4%	①92.1% ②92.8%	①115% ②116%	A A	①目標を達成することができた。 苦手意識を感じている児童も楽しく体育科の授業に参加できるような授業づくりをするために、学習内容に対応したアクティブチャイルドプログラムの動きを各学年で設定し、校内全体で取り組むことができた。また、単元末に児童の実態を把握するために意欲アンケートを実施して分析することで、次単元に生かすようにすることができた。 ②目標を達成することができた。 全国給食週間に合わせて栄養教諭と連携を行い、給食センターでの調理の様子などを教えていただくことができた。「うまいぞ三原」給食の取り組みでは、生産者の方へのインタビューを動画で視聴することができ、感謝して食べようとする気持ちを高めることができた。	①外部講師との連携を積極的に図り、運動の質を高めていけるように計画する。主体的に取り組むことができるように体育ファイルや縄跳びカードを活用する。アクティブチャイルドプログラムについての職員研修を設定し、年間指導計画に生かせるようにする。ICTを意図的に活用し、自分たちの動きを視覚的に見直したり、技のお手本と見比べたりすることで、意欲的に運動できるようにしていく。 ②今後も毎月「食育の日」を設定し、食への感謝を感じることができるように計画的に指導を行う。引き続き、栄養教諭と連携を図り、全学年で食育の学習ができるようにする。各学年で栽培活動を計画したり、調理実習したりする機会を設定し、様々な場面で食べる経験ができるようにする。	〇			食育の充実は、知・徳・体の基礎を培うことに繋がると思います。各教科・領域での指導に加え、家庭・地域との連携も視野に入れた取組をお願いします。
信頼される学校	保護者・地域とともに歩む学校の推進	〇不祥事防止の徹底 〇地域とともにある学校の創造 〇教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①自己との関わりで意識向上を図る研修の実施 ②保護者、地域、関係機関との連携 ・コミュニティスクールの推進 ・一校一貢献活動の推進 ③積極的な働き方改革への意識の向上 ・定時退校日の実施（毎週水曜日） ・教科担任制の導入	①日常的に不祥事防止に取り組んでいる教職員の割合 ②地域の人材を活用した教育活動の実施（全学年、年1回以上） ③時間外勤務45時間以下の月が6ヶ月以上の教職員の割合	①100% ②100% ③100%	①100% ②100% ③88%	①100% ②100% ③88%	①100% ②100% ③88%	A A B	①目標を達成できた。 不祥事防止研修の担当を学年で分担し行うことで、不祥事に対する意識向上につながっている。研修にロールプレイや意見交流を取り入れ自分事として捉えられるようにしている。 ②目標達成 全学年、学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組ができた。また、全学年、水泳学習を地域の方に指導していただいたり、2年生は、町探検で地域に出向き、地域の事業所などの人にインタビューをしたり、5、6年生は、やっさ振興協議会の方に出前授業をしたいただいたり、6年生は、東高校の生徒に「情報モラル」についての授業をしてもらったりした。1年生は、4年ぶりに老人会の方をお招きし、昔の遊びを教えていただく予定である。 ③目標を達成することができなかった。（4～1月88%） 4～6月は、軌道に乗るまで、色々なことに時間がかかり45時間以上の職員が多かった。しかし、どのようにしたら、効率よくできるか、声をかけたり研修をしたりして、一人一人が自分事として、時間の使い方などを工夫することができた。学校全体の取り組みは、次の通り⇒昨年度より時程を変更し、下校時刻を早め、放課後の時間確保。成績処理週間の設置（5、6校時カットの日を数日設置。）教科担任制の実施。成績処理に係るスケージュールの提示、作業時間の確保）	①不祥事防止委員会など各種委員会においてヒヤリハット事案を出し合い、未然防止に努める。不祥事防止研修では、今実際に本校で起こり得そうな不祥事を考えるなど、より自分事として考えられるような工夫をする。 ②今年度の地域人材の活用を来年度の各年間計画等に位置付けると共に、今後も新たな人材とつながれるよう検討していく。また、家庭科での実技補助など、地域の人材を活用できそうなものをピックアップしてく。また、人材をデーターバンク化し活用していく。 ③職員一人一人の意識改革を行いながら、業務改善をさらに進める。様々なことの見通しがもてるように、早め早めに周知する。仕事量の偏りがないよう各部内で調整。成績の時期については、スケジュールを提示し、早めに声かけを行ったり、成績の時期に向けて集中できるように、他の行事の時期などを考えたりする。	〇			年間指導計画に従って、多種多様な地域人材を活用した取組を進められていることが理解できました。 コミュニティースクールの計画に伴い地域の方々のお手伝い・援助が必要となってくると思います。そのために、地域の諸活動と連携しながら地域全体で育てていく、より具体的な方策を協議することが一層求められていると感じています。 次年度、人材のデータバンクの作成・活用も含め、協働した学びの取組の充実に期待をしています。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価　評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

【l:学校関係者評価　評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。